

(2) 調査結果の要約

1) 調査対象数と属性

調査対象者数はA社では436人、B社では425人、合計では861人であり、これを集計対象数とした。男女別では男性139人、女性722人であり、年代別には20代101人、30代198人、40代204人、50代182人、60代以上176人である。品目別には、にんじん211人、トマト219人、ほうれんそう220人、ピーマン211人である。なお、年代別については、なるべく均等になるように配慮し、聴き取りを実施した。

2) 食品購入時の栄養成分表示の確認（問1）

調査対象消費者に、普段、食品を購入する際に、栄養成分表示を確認して購入しているのかの調査結果は、以下のとおりである。

総合計では、「常に確認している」（19.0%）と「時々確認している」（31.9%）を合わせた一応確認して購入しているのは50.9%と半数を占め、「全く確認していない」は49.0%であった。これを年代別に見てみると、「常に確認している」との回答は20代で11.9%と最も低く、年齢が高くなるに従い回答割合も高くなり、60代では25.6%となっている。また、「時々確認している」は20代と30代の比較的若い世代で回答割合が高い。

3) 「常に確認している」と「時々確認している」消費者の食品購入時の栄養成分表示の確認（SQ1）

先の質問で、「常に確認している」と「時々確認している」と回答した調査対象者に対して、さらに食品を購入する際に栄養成分表示の内容をどの程度確認しているかについて再度、調査した結果は、「全て確認している」30.1%、「表示の一部を確認している」69.9%である。これを年代別に見ると、60代以上では「全て確認している」が46.3%と最も高い。

4) 「全て確認している」「表示の一部を確認している」消費者の食品購入時の栄養成分表示の内容（SQ2）

「全て確認している」「表示の一部を確認している」と回答した調査対象者に対して、さらに食品を購入する際に栄養成分表示の内容をどの程度確認しているかについて再度、調査した結果は（複数回答）、「エネルギー」80.4%、「脂質」57.6%、「購入商品の特徴成分」55.4%、「炭水化物」42.6%等の順である。これを年代別に見ると、「エネルギー」を除いたその他の全ての栄養成分表示において、60代以上で回答割合が最も高い。

5) 売り場での栄養成分表示貼付の認知（問3）

売り場において、調査対象野菜をパッケージや陳列棚周辺に栄養成分表示が貼付されているのを確認したのかについて総合計では、「両方とも見ていない・分からない」は

92.9%と圧倒的に多く、「POP だけ見た」3.4%、「ラベルだけ見た」2.0%、「ラベル・POP 両方見た」1.7%である。

6) ラベル・POP での栄養成分表示の購入時の参考程度 (問3—SQ1、SQ2、SQ3)

先の調査において、ラベルと POP を見た、またはどちらかを見たと回答した 61 人に対して、野菜を購入するときに参考になったのかについては、「参考になった」16 人 (26.2%) と「ある程度参考になった」20 人 (32.8%) を合わせると 59.0% (36 人) であり、「参考にならなかった」は 9.8% (6 人) である。(問3—SQ1)

(品目別の分析は対象数が少ないため集計結果を参考)

そこで、先の調査で「参考になった」と「ある程度参考になった」と回答した 36 人の調査対象者に対して、栄養成分表示内容が参考になったのは一部なのか、または全てなのかについては、「すべて参考になった」14 人 (38.9%)、「一部だけ参考になった」22 人 (61.1%) である。(問3—SQ2)

さらに、先の調査で「全て参考になった」と回答した 14 人と「一部だけ参考になった」と回答した 22 人の調査対象者に対して、ラベルと POP のどの栄養成分表示内容が参考になったのかについて、品目別に見てみると、以下のとおりである。(問3—SQ3)

- ① にんじんについて「全て参考になった」「一部だけ参考になった」と回答した 16 人については、「栄養成分表示のエネルギー」12 人 (75.0%)、「栄養成分表示のカロテン」10 人 (62.5%)、「栄養成分表示の脂質」9 人 (56.3%) 等の順である。
- ② ピーマンについては「全て参考になった」「一部だけ参考になった」と回答したのは 2 人のみである。
- ③ ほうれんそうでは「全て参考になった」「一部だけ参考になった」と回答した 9 人については、「栄養成分表示の鉄」と、「POP の鉄の説明内容」がそれぞれ 5 人 (55.6%) 等である。
- ④ トマトについて「全て参考になった」「一部だけ参考になった」と回答した 9 人については、「栄養成分表示のエネルギー」、「栄養成分表示のカロテン」、「POP のトマトの含有成分の説明内容」、および「POP のカロテンの説明内容」がそれぞれ 7 人 (77.8%) 等である。

7) 栄養成分表示野菜購入の有無 (問4)

調査実施当日に栄養成分表示が貼付された野菜の購入について調査合計で見ると、「購入した」は 6.4% (55 人)、「購入していない」は 93.6% (806 人) である。

これを対象野菜の品目別に見た「購入した」と回答した割合は、にんじんは 5.2% (11 人)、ピーマンは 6.2% (13 人)、ほうれんそうは 10.9% (24 人)、トマトは 3.2% (7 人) である。

8) 栄養成分表示の改善点 (問5)

ア. ラベルについての改善点

栄養成分表示のうちラベルの改善点について調査対象者の意見を聞いた結果は以下のとおりである。

- ① 文字の大きさについては、「適度」は 65.9%と過半数を占め、「小さい」は 33.9%である。これを年代別に見ると、文字の大きさが「小さい」は年代が高くなるにつれて回答割合も高まり、50代では 46.2%、60代以上では 55.7%となっている。
- ② 貼付位置については、「表の方が良い」は 79.9%、「裏の方が良い」は 20.1%である。
- ③ 表示単位については、「分かりやすい」は 63.5%、「分かりづらい」36.5%である。これを、対象野菜の品目別に「分かりづらい」と回答した割合をみると、にんじん(30.3%)、ほうれんそう(35.9%)、トマト(28.8%)についての回答割合は 30%前後であるのに対し、ピーマンでは「分かりづらい」が 51.2%と高い。

イ. POP についての改善点

同様のことを POP の改善点について調査対象者の意見を聞いた結果は以下のとおりである。

- ① 文字の大きさについては、「適度」は 89.3%と圧倒的に多く、「小さい」は 6.0%、「大きい」は 4.6%である。
- ② 貼付位置については、「見ていないので分からない」が 78.2%と過半数を占め、「見やすい」は 20.6%、「見えづらい」は 1.3%である。そこで、「見ていないので分からない」との回答割合につて、対象野菜を品目別にみると、ピーマンが 98.1%と 4 品目の中で最も高く、次いでほうれんそう 76.8%、トマト 77.2%、にんじん 60.7%の順に少なくなっている。一方、「見やすい」との回答割合については、にんじんが 37.0%と最も高く、次いで、ほうれんそう 22.3%、トマト 21.5%、ピーマン 1.4%の順に少なくなっている。なお、問 3「ラベル・POP 両方見た」15 人(1.7%)、「POP だけ見た」29 人(3.4%)の 44 人の回答では、「見やすい」42 人(95.5%)、「見えづらい」2 人(4.5%)となっている。
- ③ 表示単位については、「分かりやすい」は 67.2%、「分かりづらい」32.8%である。これを、対象野菜の品目別に「分かりづらい」と回答した割合をみると、にんじん(31.8%)、ほうれんそう(31.4%)、トマト(24.7%)についての回答割合は 30%前後であるのに対し、ピーマンでは「分かりづらい」が 43.6%とやや高い。

9) 野菜を購入する時の判断材料として活用の有無

今後、野菜を購入するときに「野菜に栄養成分表示」が売場にあった場合に、判断材料として活用する考えがあるのかについて調査合計では、「積極的に活用する」(20.9%)と「ある程度活用する」(40.2%)を合わせた活用に前向きな考えの調査対象者は 61.1%と過半数を占め、さらに、「少しは活用する」(21.8%)を加えた、何らか活用する考えの調査対象者は 82.9%ときわめて高く、一方、「活用しない」はわずか 13.5%にすぎなかった。